

令和2年12月18日

宇多津町長 谷 川 俊 博 殿

宇多津町行政評価外部評価委員会
委員長 高 儀 雅 俊



宇多津町行政評価外部評価報告書

このたび、宇多津町行政評価実施規程に基づき、令和元年度に宇多津町が実施した事業について外部評価を実施しましたので、次のとおりその結果を報告します。

1. はじめに、

地方公共団体は、目指すべき成果を達成するために、成果や資源、活動を分析することが求められ、そのツールの一つとして行政評価が行われています。行政評価の目的は、住民と情報を共有し、住民ニーズを把握し行政活動に反映させることとPDCAサイクルを通じて職員のコスト意識、経営感覚を身につけ事業改善を図り、限られた資源で最大の成果をあげられるようにすることです。また改善において予算や人員体制の検討に繋がることもその波及効果の一つです。

2. 行政評価の対象

行政評価の対象は、施策を支えている事務事業であります。事務事業は、施策を達成するために単年度毎に実施しているものであり、政策、施策をより効果的に達成するためには、事務事業が有効かつ効率的に実施されなければ達成は不可能であります。このため、住民に一番密着し関係の深い事務事業を評価することが必要であります。従って、事務事業の目的・目標、活動・成果等を精査し、行政評価を通してPDCAサイクルを充実させ、課題克服により施策実現に向けて取り組むことが求められます。

なお、教育委員会が所管する事業については、別に外部委員会を有する行政評価を行っているため本委員会の評価対象から除外しています。

3. 行政評価の手法

まず前年度に実施した事務事業について町行政による内部評価を行い、その後、外部評価委員会に事業を所管する所属長に出席していただき、各事務事業の目的・目標、成果などの詳細について聞き取りを経て、住民の視点から必要性、効率性、有効性のそれぞれの妥当性について判断した上で、次の5段階で評価を行いました。

- ・ 拡充（予算や人員を増やし、更に積極的に取り組むべき。）
- ・ 維持（見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。）
- ・ 改善（より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図るべき。）
- ・ 縮小（町民ニーズの低下や事業効果が薄いため、事業を縮小してもよい。）
- ・ 廃止（町が実施する必要性が無くなったため、事業として不要である。）

4. 外部評価委員会の活動

外部評価委員会は、6名の委員で構成しており、内1名が本年度新たに選出された委員でした。評価対象の事務事業は、令和2年9月と10月に開催した2回の委員会において、過去に実施済みの情報も含め意見交換を行い本年度の8事業を選定しました。そして、11月に各事務事業の外部評価を行う委員会を3回開催し、各担当課の所属長も出席のもと、事業の詳細について聞き取りを行い外部評価の結果をまとめました。

5. 外部評価結果

外部評価委員会の評価結果は、各々の事務事業別の別紙「宇多津町外部評価外部評価票」をご参照下さい。なお、本年は8事業のうち、拡充2事業、維持4事業、改善2事業、縮小0事業、廃止0事業となりました。

事業全般について、事業の目的を認識しその手段と成果の関係性を意識して事業を実施して頂きたい。聞き取りにおいて、職員の事業推進のために努力する実直な姿勢は評価できますが、成果を求められる現実はある評価結果を真摯に受け止め、更なる改善アクションを期待します。

総 括

事業の詳細について聞き取りを行った結果、職員の皆様の各事業への姿勢は評価できます。しかし、手段や結果を顧みる手法などにおいて、部外者の視点から、もう一踏ん張りが望まれる点や見直しが必要と思われる点もありました。当然、プロセス遂行から見ると現時点では難しい面もあるかもしれません。評価は、住民各自の価値観の多様性により多面性が望まれ、利害関係なき者からの意見も行動・発想の起点となり得るケースも往々にあります。

加えて、コロナ禍により人の密集を避けるなど、全般にわたってこれまで行ってきた事業の実施手法の見直しも迫られています。この度、報告する外部評価結果を有効活用され、目標に向けた行動の一助となり、行政が果たすべき役割・機能が少しでも充実・向上されることを期待します。

最後に、外部評価の聞き取りにおいて、所管課の責任者の皆様方は丁寧に説明して頂きこの場をお借りして御礼申し上げます。

以上

宇多津町行政評価 外部評価票

事業実施年度	令和元年度	担 当 課	危機管理課
事業名	消防体制の強化事業		
事業目的	消防団の強化を図り、消火活動のみならず、防災活動、国民保護などの役割を担いうる組織とするため、消防団員の確保、消防機器・設備の充実に努める。		
事業概要	消防機器・設備の計画的な維持管理・充実に努めるとともに、消防訓練の実施により、防火思想の浸透及び消火技術の向上を図る。		
内部評価結果	維持	見込んだ効果も得られており、現状どおり継続して実施する。	
外部評価結果	維持	見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。	
外部評価の視点	必要性	妥当である	妥当でない 判断できない
	効率性	妥当である	妥当でない 判断できない
	有効性	妥当である	妥当でない 判断できない
外部評価所見	常備消防（消防署）を持たない本町において、火災や災害時の活動に消防団は重要な組織である。 活動に必要な車両等の消防設備は計画的に更新し適切に維持されている。人員も定員数をほぼ充足し、技術水準確保のための訓練も定期的に行われている。 災害対応の重要性が増す中、新規団員の確保に努められ町民の安全安心が担保されるよう引き続き取り組んでほしい。		

【評価項目】

- 拡充・・・予算や人員を増やし、更に積極的に事業に取り組むである。
- 維持・・・見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。
- 改善・・・より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図るべき。
- 縮小・・・町民ニーズの低下や事業効果が薄いため、事業を縮小してもよい。
- 廃止・・・町が実施する必要性が無くなったため、事業として不要である。

【評価の視点】

- 必要性・・・社会情勢や町民ニーズに適う事業であるか。町が実施する事業であるか。
- 効率性・・・事業実施において効率化が望めないか。
- 有効性・・・見込んだ成果が得られているか。
- 目標達成に有効な事業となっているか。

宇多津町行政評価 外部評価票

事業実施年度	令和元年度	担 当 課	総務課
事業名	ふるさと納税制度活用事業		
事業目的	寄付金を自主財源（寄付金の約５割）として指定された用途の事業に活用。 ふるさと納税ポータルサイトや返礼品を通して、町のPR、関係人口の構築を図る。 返礼品の送付により町の経済振興を図る。		
事業概要	寄付者に対して返礼品を送付。 新しい返礼品の発掘や近隣自治体との共通返礼品の合意。 ポータルサイトの充実・拡充。 各種イベント等でのPR活動。		
内部評価結果	改善	より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図る。	
外部評価結果	改善	より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図るべき。	
外部評価の視点	必要性	妥当である	妥当でない 判断できない
	効率性	妥当である	妥当でない 判断できない
	有効性	妥当である	妥当でない 判断できない
外部評価所見	国の制度改正により返礼品の数が減少したことから寄付件数が大幅に減少している。 高齢化や人口減少を考慮すると今後の行政運営においても本制度活用の重要性は増しつつあると考えられる。 地元企業と連携したイベント型の返礼品を取り入れるなど見直しを図り魅力ある宇多津町を積極的にPRし寄付金額の増加と地元企業等の活性化に取り組んでほしい。		

【評価項目】

- 拡充・・・予算や人員を増やし、更に積極的に事業に取り組むべきである。
- 維持・・・見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。
- 改善・・・より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図るべき。
- 縮小・・・町民ニーズの低下や事業効果が薄いため、事業を縮小してもよい。
- 廃止・・・町が実施する必要性が無くなったため、事業として不要である。

【評価の視点】

- 必要性・・・社会情勢や町民ニーズに適う事業であるか。町が実施する事業であるか。
- 効率性・・・事業実施において効率化が望めないか。
- 有効性・・・見込んだ効果が得られているか。
 目標達成に有効な事業となっているか。

宇多津町行政評価 外部評価票

事業実施年度	令和元年度	担 当 課	まちづくり課
事業名	うたづの町家とおひなさんにぎわい創出事業		
事業目的	住民と行政のパートナーシップを確立し、一人ひとりが街づくりに参画するとともに、住民と行政など多様な主体がまちづくりを担う。		
事業概要	宇多津の古街を見直し、町並みを保存したい。その思いから町内の有志（ボランティア）らにより企画・運営を実施、実行委員会を設立。 展示募集をはじめ、お手伝いのボランティアを募り運営し町内外へ情報発信。出展者をはじめ来場した方が楽しめる住民主体のイベント。		
内部評価結果	維持	見込んだ効果も得られており、現状どおり継続して実施する。	
外部評価結果	維持	見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。	
外部評価の視点	必要性	妥当である	妥当でない 判断できない
	効率性	妥当である	妥当でない 判断できない
	有効性	妥当である	妥当でない 判断できない
外部評価所見	地域住民が実行員会を作り町家の残る古街の町なみ保存を目指して開催しているイベントで本町の地域特性を活かした事業である。事業費も最小限に抑えられた経費となっており来場者数等その効果は非常に大きい。 第1回から15年余りが経過したが、毎年イベントの内容を異ならせるなど工夫もみられ、行政として引き続き本取り組みを支援し継続して開催されることを期待する。		

【評価項目】

- 拡充・・・予算や人員を増やし、更に積極的に事業に取り組むべきである。
- 維持・・・見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。
- 改善・・・より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図るべき。
- 縮小・・・町民ニーズの低下や事業効果が薄いため、事業を縮小してもよい。
- 廃止・・・町が実施する必要性が無くなったため、事業として不要である。

【評価の視点】

- 必要性・・・社会情勢や町民ニーズに適う事業であるか。町が実施する事業であるか。
- 効率性・・・事業実施において効率化が望めないか。
- 有効性・・・見込んだ成果が得られているか。
 目標達成に有効な事業となっているか。

宇多津町行政評価 外部評価票

事業実施年度	令和元年度	担 当 課	まちづくり課
事業名	うたづアロハナイト補助事業		
事業目的	うたづ臨海公園において、県内外からフラダンスチームを招き、フライベントを開催することで、町内外の交流人口の増加を図るとともに近隣の事業者や香川短大の協力を得ながら、商業・観光の活性化を図る。		
事業概要	う たづ臨海公園において開催されるフラダンスイベント「うたづアロハナイト」への補助金の支出及び運営の補助をすることにより、観光振興を図る。		
内部評価結果	維持	見込んだ効果も得られており、現状どおり継続して実施する。	
外部評価結果	拡充	予算や人員を増やし、更に積極的に事業に取り組むべきである。	
外部評価の視点	必要性	妥当である	妥当でない 判断できない
	効率性	妥当である	妥当でない 判断できない
	有効性	妥当である	妥当でない 判断できない
外部評価所見	フラダンスイベントで瀬戸内海に沈む夕日がハワイを連想させる宇多津臨海公園の立地を活かした特徴のある事業である。参加団体も増加しており定着したイベントとなっている。 四国水族館が同公園内に開業したことから、水族館を始め近隣商業施設とも連携し、より高い相乗効果を生むイベントとして創意工夫し実施されるようことを望む。 また、今後は経費増加を抑制するための仕組みも検討してほしい。		

【評価項目】

- 拡充・・・予算や人員を増やし、更に積極的に事業に取り組むべきである。
- 維持・・・見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。
- 改善・・・より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図るべき。
- 縮小・・・町民ニーズの低下や事業効果が薄いため、事業を縮小してもよい。
- 廃止・・・町が実施する必要性が無くなったため、事業として不要である。

【評価の視点】

- 必要性・・・社会情勢や町民ニーズに合う事業であるか。町が実施する事業であるか。
- 効率性・・・事業実施において効率化が望めないか。
- 有効性・・・見込んだ成果が得られているか。
目標達成に有効な事業となっているか。

宇多津町行政評価 外部評価票

事業実施年度	令和元年度	担 当 課	地域整備課
事業名	道路維持管理事業		
事業目的	道路法に基づき町道利用者が安心・安全で快適に移動できるための道路の維持管理を行う。		
事業概要	町道における適正な維持管理を実施することで、道路機能の充実を図る。 【主な管理内容】 舗装の修繕、道路構造物の修繕、植栽の剪定、植栽の灌水、草刈、その他		
内部評価結果	維持	見込んだ効果も得られており、現状どおり継続して実施する。	
外部評価結果	維持	見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。	
外部評価の視点	必要性	妥当である	妥当でない 判断できない
	効率性	妥当である	妥当でない 判断できない
	有効性	妥当である	妥当でない 判断できない
外部評価所見	10年毎に現地調査を行い修繕計画を立て、計画的に予算執行されている。引き続き事故が起こらないよう適切な道路管理をお願いする。 今後は高齢化社会の進行に伴い歩行者にとって安全で歩きやすい道路が重要と考えられる。維持事業ではあるが原状回復のみならず歩行者にとっての機能性向上の視点も加味し引き続き維持管理に取り組まれることを望む。		

【評価項目】

- 拡充・・・予算や人員を増やし、更に積極的に事業に取り組むべきである。
- 維持・・・見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。
- 改善・・・より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図るべき。
- 縮小・・・町民ニーズの低下や事業効果が薄いため、事業を縮小してもよい。
- 廃止・・・町が実施する必要性が無くなったため、事業として不要である。

【評価の視点】

- 必要性・・・社会情勢や町民ニーズに適う事業であるか。町が実施する事業であるか。
- 効率性・・・事業実施において効率化が望めないか。
- 有効性・・・見込んだ成果が得られているか。
 目標達成に有効な事業となっているか。

宇多津町行政評価 外部評価票

事業実施年度	令和元年度	担 当 課	住民生活課
事業名	リサイクル推進事業		
事業目的	町内全域を対象とし、広報啓発活動の実施や、排出時の住民への指導を通して、ごみの減量化・資源化及び再生利用の促進、分別収集や資源化に対する住民意識の高揚を図る。		
事業概要	家庭から排出される資源ごみを町内全域 10 区域（154 か所）に分けて、1 か月に 2 日、定期的に回収を実施することで、可燃ごみ・不燃ごみ等との混入率を低減し、リサイクルの推進に努める。 【資源ごみ対象品目（15 種類）】 缶類（アルミ・スチール）・ビン類（無色、茶色、その他）・ペットボトル・プラスチック製容器包装・古紙類（新聞・段ボール・雑誌・牛乳パック）・乾電池・廃食油・衣類・蛍光灯等		
内部評価結果	維持	見込んだ効果も得られており、現状どおり継続して実施する。	
外部評価結果	維持	見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。	
外部評価の視点	必要性	妥当である	妥当でない 判断できない
	効率性	妥当である	妥当でない 判断できない
	有効性	妥当である	妥当でない 判断できない
外部評価所見	評価票から本町の近年のリサイクル率は約 12%～13%で推移している。地球規模で環境問題への取り組みは年々重要性を増しているなか、県内において本町よりリサイクル率の高い自治体も多数あることから、その手法を参考にするなど、更なるリサイクル率向上に取り組んでほしい。		

【評価項目】

- 拡充・・・予算や人員を増やし、更に積極的に事業に取り組むべきである。
- 維持・・・見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。
- 改善・・・より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図るべき。
- 縮小・・・町民ニーズの低下や事業効果が薄いため、事業を縮小してもよい。
- 廃止・・・町が実施する必要性が無くなったため、事業として不要である。

【評価の視点】

- 必要性・・・社会情勢や町民ニーズに適う事業であるか。町が実施する事業であるか。
- 効率性・・・事業実施において効率化が望めないか。
- 有効性・・・見込んだ成果が得られているか。
- 目標達成に有効な事業となっているか。

宇多津町行政評価 外部評価票

事業実施年度	令和元年度	担 当 課	保健福祉課
事業名	福祉タクシー助成事業		
事業目的	町内の高齢者及び重度心身障がい者等で、交通手段がなく外出が困難な方に対して、タクシー助成券を交付し、タクシーを利用することにより、外出等を容易にし、高齢者及び重度心身障がい者等の福祉の増進を図る。		
事業概要	対象者には年度当初に、また、年度途中で対象となる方は毎月抽出し交付申請書を送付する。外出したくても交通手段のない方からの申請を受け付け審査し、交付対象となる者には、1年間に12,000円(500円×24枚)のタクシー助成券を交付する。ただし、年度途中での場合には、申請月に応じて助成券を交付する。		
内部評価結果	改善	より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図る。	
外部評価結果	改善	より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図るべき。	
外部評価の視点	必要性	妥当である	妥当でない 判断できない
	効率性	妥当である	妥当でない 判断できない
	有効性	妥当である	妥当でない 判断できない
外部評価所見	令和元年度から支給額を1万円から1万2千円へと一律増額し、令和2年度にはコミュニティバスの試行運行が始まり、現状事業の重複が生じた状態となっている。 3年間のコミュニティバスの試行運転の期間中にそれぞれが利用の実態について調査を行い、必要としている人に必要な行政サービスが効率的に行き届くように改善されることを望む。		

【評価項目】

- 拡充・・・予算や人員を増やし、更に積極的に事業に取り組むべきである。
- 維持・・・見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。
- 改善・・・より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図るべき。
- 縮小・・・町民ニーズの低下や事業効果が薄いため、事業を縮小してもよい。
- 廃止・・・町が実施する必要性が無くなったため、事業として不要である。

【評価の視点】

- 必要性・・・社会情勢や町民ニーズに適う事業であるか。町が実施する事業であるか。
- 効率性・・・事業実施において効率化が望めないか。
- 有効性・・・見込んだ成果が得られているか。
目標達成に有効な事業となっているか。

宇多津町行政評価 外部評価票

事業実施年度	令和元年度	担 当 課	健康増進課
事業名	健康まつり事業		
事業目的	健康で明るい生活が送れるよう健康づくりへの意識づけを図るため、住民対象に年1回健康まつりを実施する。		
事業概要	住民の健康への意識の高揚を図る。毎年11月23日に定例的に実施。健康チェックコーナー他食育（食生活改善）や心の健康等コーナーあり。地域包括支援センターの脳トレ体験や作品展示等実施。ボランティア、関係機関の協力により開催。		
内部評価結果	維持	見込んだ効果も得られており、現状どおり継続して実施する。	
外部評価結果	拡充	予算や人員を増やし、更に積極的に取り組む事業である。	
外部評価の視点	必要性	妥当である	妥当でない 判断できない
	効率性	妥当である	妥当でない 判断できない
	有効性	妥当である	妥当でない 判断できない
外部評価所見	多数のボランティアに支えられた事業運営がなされ、参加者も600名を超えていることから効果的な事業であると考えられる。 しかしながら若い世代の参加者が少ないことが課題となっており、開催時間の延長やより積極的な周知を行い、より多くの人に参加してもらえるよう取り組んでほしい。		

【評価項目】

- 拡充・・・予算や人員を増やし、更に積極的に事業に取り組むべきである。
- 維持・・・見込んだ効果も得られており、現状どおりでよい。
- 改善・・・より有効な事業となるよう、事業の改善や事務の効率化を図るべき。
- 縮小・・・町民ニーズの低下や事業効果が薄いため、事業を縮小してもよい。
- 廃止・・・町が実施する必要性が無くなったため、事業として不要である。

【評価の視点】

- 必要性・・・社会情勢や町民ニーズに適う事業であるか。町が実施する事業であるか。
- 効率性・・・事業実施において効率化が望めないか。
- 有効性・・・見込んだ成果が得られているか。
- 目標達成に有効な事業となっているか。